

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原 1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address. http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

2014 年産オランダ産百合球根価格表発行準備資料

5 月 2 日オランダ出張前に書いた原稿です

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

2014 年産 オランダ産 百合球根 価格表（速報版 暫定版）を作成した。
宜しくご確認下さい。

今回発行の価格表は、今までの価格表ともっている意味に、やや違いがございます。（1 回目にしてはページ数少ない。）

価格表に示してある、FOB 価（当社仕入価）が完全確定していない為、後日若干変更依頼を行わなければいけない品種すら含まれています事、ご承知おき下さい。（さほど、大きくは変わりません。）

*** 新品種はあまり載せてありません。後日改めて追加します。（目的を持ってそうします。）**

曖昧な状態でも、皆様にお示ししたい理由は、この 14 年産を「大きな変換点」・「球根流通が変わるスタートの年」にしなければと、感じているからです。（Plamv 事件以降、始まっていた事がクリアになってきました。）

長い事続いていた「デフル」、そこからの脱却。

変換点を迎えたのは日本だけではなくて、実は球根生産国側の事情が大きい様です。（球根生産の原点に回帰したとも言える。）

日本国内の産地、又は作型によって、産業への影響度の高い変化が、1 つしか起きないケースと、2 つの事が同時に起きてしまうケースがある様です。（1～2 年の地さを経て、多くの産地が経験する事になると思います！）

球根価格が以前の水準に戻る傾向？（これは常に将来のベース品種を作り続けるという風に考えてみましょう。）

①12 年産は本当に底値でした。（円高と球根相場）

この価格と比べて 13 年産はやや高い。14 年産もやや高い。

私たちににとっては苦しい話ですが、ある意味元に戻っただけ。全員が同じ条件です。

②どうやら、産地作型によっては、品種変更を検討しなければいけない様です。

厳しい時に…どこよりも先に本気で挑戦しなければいけない。チャンスと捉えましょう！

流通年度毎での球根価格で言うと、

0. T/O. H 系は、

①型で、05/06 年産くらいのイメージ。

②型だと、97/98年産くらいのイメージとなる様です。

別の言い方で表現します。

1EURO=¥138~¥148 での条件。

0. T/O. H 系球根サイズ 18/20 ベースでの条件。

55円~70円台の球根 **(250EURO~325EURO)**

日本を含む世界のどこかの国で、4サイズ以上の球根が流通することが出来る品種。

他の国が、使い続けてくれる前提で可能。

各国の消費動向によっては、変化してくる。(日本向け主要品種の中で、これが今日現在、維持できるのは？
ソルボンヌとシベリア…。他に準主要品種にはいくつかありますか？)

70円~79円台 **(325EURO~375EURO)**

栽培面積が30~50haに到達するまでの期間(5~10年)、この価格帯が維持されて4サイズ消費の目途が立つ品種。(ハセブラ・エバース・ビビア・ピコなどがそうでした。)

中々出てきにくいと思います。(各国が、独自の消費傾向を作り始めたから。特にピンク系・赤系。大切にしていきたいでしょう。)

この球根価格帯で、日本の市場の準主要品種を作らないと、現在の切花価格帯が、しばらく続く様でも、日本向けの品種開発は難しいだろうと感じています。

カギは他国の消費動向と、息を合わせていけるかに、懸っています。

80円~89円台 **(350EURO~430EURO)**

この価格で、多くの切花産地が使い続けて、商品を育て続けなければいけない。

品種を成長させるのに、最も重要な球根価格帯の様です。

05~10年までの期間、オランダの百合球根産業は、生産量がやみくもに増加しましたが、たった一つの方向性を向いているわけにはいきませんでした。この価格帯の球根は、品種を問わなければいっぱいあるのですが(1品種毎の流通量は極めて少ない)、将来、日本の主流となる品種があるのか？と言えば…。見つめましょう！作り上げていきましょう！(気象条件や作型が、制限されてしまうような品種/ケースがほとんど。世界市場を見ているからね！)

90円~100円台 **(400EURO~500EURO)**

開発が始まったばかり、「期待できるのでは」、という雰囲気の中で、球根を使う側も初期開発費を負担していくという考え方。

この価格帯の、球根の消費量の多い国の消費傾向が、5年後~10年後のオランダや各球根生産国の主要生産品種を作る事が、出来るのだらうと思います。(今は中国・ベトナム・メキシコ、O.Tの開発が急速に進められていることから確認できます…)

振り返ってみれば、日本の80年代後半から、2000年代の始めにかけてやってきた事が、まさしくそれです。

カブラナカ・ソルボンヌ・シベリア・イエローウィン・シラなど…。(途中には、マルポロ・アブル・マロ・リアルト・ロンバルディア・アケイブ・リブランコなどもありましたね…)

*最近の日本は、一部の品種(コンスタ・カナ・ビビア・クリスタルブナカ・ハセブラなど4サイズ消費できる品種に育った。)を除けば、この350EURO~500EURO台品種を、どちらかと言えばモノに仕上げきれない傾向にあった様に思います。(誰かとは言いません。オランダも日本も…お互い様です。要求が高すぎたのかもしれない。)

全国の主要切花産地が、主要品種を生産し、日本の切花市場のベース品種を作っていく事により、少量多品種の個性を発揮できる品目にしていく事は、多くの国産花卉類が既に証明しています。(多様化の否定ではありませんよ！念の為。)

14年産のもう一つの重要ポイント。

O.H/O.T系の切花流通の安定化を図る上で、新品種開発並みに重要度が高いことが、作型毎にコンディションの違う球根を使い分けることです。

ラズダは、小さい様でいて、各国の気象条件が違います。(マイクロクライマート)

さらに1年養成、2年養成、早掘、遅掘、T1・T2球根、りん片からの肥大球。

球根栽培の履歴が違います。

カブラカ・サルボヌ・シバリアは、いうに及ばず、既に発表されていて、25年以上経過した品種は、その球根増殖方法により(栄養繁殖)、各々の球根業社でも、「丈が伸びやすい」・「丈が伸びにくい」・「輪が付きやすい」・「輪が付きにくい」など、様々な傾向を示す複数ロットを扱っています。

コンディションという意味では、本当は品質規格である「EVR」・「NES」・「SES」・「標準球」のいずれかに該当するはずなのに、別のコードで呼び始めた事には理由があります。

「TYS」・「MAK」・「HLC」・「セクト」・「レト」・「POF」・「VOF」だとか、あたかもコンディションの様に使われるケースがありますが、本当は『芽動きが早い、遅い、丈が伸びにくい、伸びやすい』など、単純に『SかL』と言う呼び名に集約させたほうが良いのです。(輪付きや草姿の差もあります！)

但し、細かな分類をしないと各々の球根農家を守れないのだ、という事はご理解ください。品種を守るのと同じくらい重要なのは、もうはっきりしましたよね！

*2N・TL・Turbo=これは球根の作られ方や、養成球の履歴の区別をしています。

*ところで、上記したことから確認していただきたいのは、

新しい品種・栽培面積の少ない品種は、様々な分類をする必要が無い。もしくはできないのです。(様々な生産地・生産方法が無い。ロット間の大きな違いがまだ確認できない。Plamvの問題を除けば、基本的にキレイなはずですしね…)

各々の切花産地の、作型毎の安定化を図る為に…。

上手に使いこなしてください。

*詳しくは当社担当まで。

A.H/L.A系は

球根価格が上昇してしまいます。

O.T/O.H系の様に

1EURO=¥138~¥148 での条件

球根サイズ 14/16ペースでの条件。

日本向け品種は、他国で売りにくい。

他国は115EURO~130EUROの価格帯ではなくて、130~150EUROの価格帯で切花生産が継続できる様です。

日本向け品種も、切花価格が安くても、これらの価格帯を使ってこななければ、球根生産を継続してもらえない。(小さいサイズが使えればいけますかね?)

日本におけるA.H/L.A系は、90年代28~35円くらいの球根価格帯から、2000年代初頭にかなり暴落しました。

25円を切るところで、主要品種が流通していたように思います。(世界的に。)

ここにきて、メイコ・ラズダ・ベトナムあたりが払える価格に合わせざるを得なくなってきました。

イメージ的に言うと、安くて26~27円、普通に29~32円くらい。

高くなったように感じますが、昔に戻るだけです。(改めて確認してみると…。)

景気が悪くて厳しい環境ですが、先につながる、先につなげられる球根を取り扱いたいです。きびしさに早く気が付いたから、早く対応できる、と考えれば最大のチャンスとなるでしょう。

「チャンスをつかみたい」頑張りたいです。

本年もよろしくお願ひ致します。

以上 森山 隆



<http://www.lily-promotion.jp/>

私共はLPIJの運営に賛同し
協力・応援しています